

日本語の再発見
最初の表音文字

先に、「たいていの民族は、自分の力では文字を創作することが出来ないで、先進民族の既製の文字を借りて済ませた。その用法が“仮借”であり、換言すれば“表音的用法(フォネチック)”である」と述べたが、これが「表音文字の誕生」といふ事なのである。

「最初の表音文字」は、今から五千年ほど昔、アッカード人がスメール文字を借りて、アッカード語を表した時に誕生した。続いて、スメールの周辺に住む民族たちは、恐らく次々にその文字を借りて自分たちの言葉を表さうとして、これを“表音文字”として使ったことだらうと考へられるが、これが遠くにまではなかなか及ばかかったと思ふ。

これが広く世界に広まるやうになったのは、それから二千年も経った紀元前一〇〇〇年頃、地中海を舞台に広く海外貿易に従事してみたフェニキヤ人の力に依るものが大きい。その足跡は、その頃すでに地中海に遍く、遠くはスペインにまで及んでみたことが、今では明らかになってゐる。

さて、西欧の“表音文字”は、普通、アルファベットといふ風に呼んでゐるけれども、これは、Aをギリシャ語で“アルファ” Bを“ベーター”と発音してみたので、この二字を合せて“アルファ・ベーター”と呼んだこと

に由来する。それは、わが国において、“かな文字”のことを“いろは”と呼んだのと同じことである。

然し、アルファベットの源流を求めると、先に述べたやうにアッカードに至るのである。アッカード人は、Aを“アレフ”、Bを“ベート”と発音してみたことが、今では明らかにされてゐる。さうすると、アッカード人のアルファベット(実は“アレフ・ベート”)が、フェニキヤ人の手を経てギリシャに渡り、こゝで“アルファ・ベーター”と呼ばれ、今のアルファベットの名称が成立したものであらう。